

## 令和5年度第1回横須賀市総合教育会議議事録

### 1 開会の日時

令和6年1月11日（木） 午前9時30分

### 2 出席委員

上 地 克 明	市長
新 倉 聡	教育委員会教育長
荒 川 由美子	教育委員会委員 (教育長職務代理者)
澤 田 真 弓	教育委員会委員
川 邊 幹 男	教育委員会委員
元 木 誠	教育委員会委員

### 3 傍聴人 12名

### 4 議題及び議事の概要

- ・市立小中学校の教育環境整備の推進について

○開会

○会場に余裕があるため、傍聴定員を超えた傍聴者の入場を許可

○議事 市立小中学校の教育環境整備の推進について

(教育総務部長)

それでは、議事、市立小中学校の教育環境整備の推進についてを議題とします。内容について、教育政策課長から説明をお願いします。

(教育政策課長)

市立小中学校の教育環境整備の推進について、ご説明させていただきます。資料につきましては、次第をおめくりいただきまして、説明資料のほうを

ご覧ください。

1の諮問になります。

本市教育委員会では、横須賀市教育環境整備計画に基づき、令和4年5月23日に田浦地域と走水・馬堀地域における教育環境整備の推進について、横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行い、同審議会におきましては、地域の関係者等で構成する地域別小中学校教育環境整備検討協議会をそれぞれ設置し、意見聴取を行った上で検討を行っていただきました。

続いて、2、地域別小中学校教育環境整備検討協議会における方策案になります。

田浦地域及び走水・馬堀地域における小中学校教育環境整備検討協議会での意見を集約・整理し、記載のとおり、それぞれ3つの方策案にまとめ、審議会において報告してございます。

田浦地域における方策案につきましては、方策案1、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。方策案2、長浦小学校に中学校を併設する。また、田浦中学校に小学校を併設する。方策案3、田浦小学校を現地で建て替えるの3つでございました。

また、走水・馬堀地域の方策案は、方策案1、走水小学校区を馬堀小学校区へ編入する。方策案2、走水小学校区を現状のまま存続し、定住促進策を講じる。方策案3、小規模特別認定校として走水小学校を存続するの3つでございました。

続いて、3、横須賀市立小中学校適正配置審議会の答申をご覧ください。

適正配置審議会におきましては、それぞれの地域における地域別協議会からの方策案等に基づいて、計6回の審議を重ね、田浦地域につきましては、田浦小学校の学校施設の老朽化及び田浦小学校と長浦小学校の学校規模の小規模化が課題となっており、現地での建て替えが困難であることから、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する方策が妥当である。

また、走水・馬堀地域につきましては、走水小学校と馬堀小学校の学校規模の小規模化が課題となっており、特に走水小学校においては複式学級となっていることから、喫緊の課題を解決するための方策として、走水小学校区を馬堀小学校区に編入する方策が妥当であるという答申を提出されております。

なお、答申につきましては、両校の児童が円滑に新たな環境で学べるようにすること、通学の安全を確保する方策を講じる必要があること、全市的な遠距離通学に対する方策の検討が必要であることが付言されております。

資料の2ページをご覧ください。

資料の2ページでは田浦地域、右側の3ページでは走水・馬堀地域の答申

書の写しを添付してございます。

なお、本件におきましては、適正配置審議会での審議と2つの地域における地域別協議会での意見聴取のほか、書面やメール等によりご意見をいただいておりますので、口頭ではございますが、ご報告させていただきます。

署名につきましては、令和5年7月に田浦小学校統廃合の反対を要望する156名の署名と、横須賀市立小中学校適正配置審議会答申の走水小学校区を馬堀小学校区へ編入する方策の見直しと、走水小学校を小規模特別認定校として存続させることを要望する3,495人分の署名を令和6年1月9日に受領しました。

また、メールやファクス等によりいただいたご意見につきましては計78件でございまして、主な内容につきましては、統合に反対するもの、通学の安全確保に関するもの、アンケート結果、校名等に関するものでございます。

続いて、資料の4ページをご覧ください。

ここから先の説明につきましては、教育環境整備を進める上での背景などをご説明させていただきます。

1、少子高齢化を伴う人口減少についてでございますが、資料に記載のとおり、本市の総人口は、平成5年度の43万9,280人をピークに減少しており、特に年少人口が大きく減少し、今後もさらに減少することが見込まれます。

次の2、小学校児童数の減少についてにつきましては、少子高齢化を含む人口減少に伴って、小学校の児童数は、昭和56年の4万5,078人をピークに令和5年ではピーク時の約6割減少しているものの、学校数はほぼ横ばいという状況で学校規模が小規模化している状況がございました。

また、5ページにもあるとおり今後もさらに児童数の減少が見込まれます。6ページをご覧ください。

1、教育環境整備計画の概要をご覧ください。

急激な少子高齢化を伴う人口減少が見込まれる本市におきまして、教育委員会では、「横須賀の目指す教育の姿～あなたが好き私が好き横須賀が好きと誇れる人づくり～」の実現に向けた教育環境を整備するため、教育環境整備計画を策定しています。

2の小中学校の現状と課題についてでございますが、先ほどの説明にもありましたが、本市では、少子化が進む中で学校数が横ばいであることなどから、右の7ページ下段の2つの表にもあるとおり、現在小学校では、過小規模校1校、小規模校13校、中学校では14校が小規模校となっております。

教育環境整備計画では、小中学校の学校規模に係る小規模化の課題として、人間関係が固定化しやすい、多様な意見等に触れることが難しい、集団学習に制約が生じる、バランスの取れた教職員配置が難しい、教職員1人当たり

の校務が幅広く負担になるといったことが考えられます。

また、7ページの上段、学校規模の定義では、横須賀市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針における学校規模の分類を記載してございます。

なお、今回の対象地域における4つの小学校では、走水小学校は過小規模校、田浦小学校、長浦小学校、馬堀小学校については、小規模校に分類されます。

資料の8ページをご覧ください。

教育環境整備計画における通学距離の課題としては、横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針においては、適正な通学距離を小学校で2キロ程度、中学校で3キロ程度としてございますが、学校の立地や自然環境、住宅の偏在といった状況により、基準を超えている地域があり、市内の公共交通機関の整備状況等、生活圏の実情や地域の特性を勘案して判断します。

資料の9ページをご覧ください。

教育環境整備計画における学校施設の課題としては、本市の学校施設は、児童生徒の増加を背景に昭和50年代に集中して建設され、全体の5割の小・中学校が建築から50年以上経過しており、学校施設の老朽化が進んでいますので、全市的に建て替えを検討する時期にきています。

なお、今回の対象である田浦小学校は築70年、長浦小学校は築32年、走水小学校は築49年、馬堀小学校は築52年という状況になっております。

また、学校施設の老朽化及び建て替え等で考慮すべき事項として、土砂災害特別警戒区域いわゆるレッドゾーンの指定というものがございます。本市の地形は起伏の多い丘陵地でございます、一部の学校でレッドゾーンに指定されてございます。

資料の10ページをご覧ください。

3、教育環境整備計画の対象地域・対象校についてでございます。

教育環境整備計画に基づく検討スケジュールでございますが、本計画の計画期間は令和4年度から令和11年度までの8年間で、前期計画の4年間では、田浦地域と走水・馬堀地域を検討地域とし、後期計画での検討地域を逸見・中央地域としてございます。

資料の11ページの4、検討体制・組織についてご覧ください。

こちらでは、2つの地域の方策の検討に当たった検討体制や組織になります。

まず、市教育委員会から附属機関である横須賀市立小中学校適正配置審議会へ諮問を行いました。これを受けて適正配置審議会は、地域別小中学校教

育環境整備検討協議会からご意見を伺いました。そして、この協議会で出た意見、方策案を踏まえて、適正配置審議会が本市教育委員会へ答申を提出しているという状況でございます。

資料の 12 ページをご覧ください。

第 4、教育環境整備前期計画対象地域の課題等についてです。

初めに、1、田浦地域をご覧ください。

田浦地域における課題は、田浦小学校、長浦小学校ともに小規模化が進み、令和 5 年度では、両校は全学年単学級となっていて、今後も児童数の減少が見込まれるとともに、特に田浦小学校におきましては、校舎の築年数が市内で最も古く 70 年を経過し、建て替え時期を迎えていますが、防災面や周辺道路の状況から多くの課題があるといったことがございます。

田浦地域の小・中学校の現児童数及び今後の児童数等の推計は、(2) 田浦地域の小学校の状況に記載のとおりでございます。

資料の 14、15 ページをご覧ください。

こちらでは、田浦小学校と長浦小学校のレッドゾーンの指定状況及び学校施設の状況を記載しております。

続いて、資料 16 ページをご覧ください。

2、走水・馬堀地域になります。

走水・馬堀地域の課題は、走水小学校、馬堀小学校ともに小規模化が進み、特に走水小学校は児童数が 32 人と市内で最も小規模であり、1 年生と 2 年生が市内で初めて複式学級となっている状況であるとともに、隣接する馬堀小学校も単学級が存在する小規模校で、今後も児童数、学級数の減少が見込まれるといったことがございます。

走水・馬堀地域の小・中学校の現児童数及び今後の児童数等の推計につきましては、(2) 走水・馬堀地域の小学校の状況に記載のとおりでございます。

資料の 18、19 ページをご覧ください。

走水小学校と馬堀小学校のレッドゾーンの指定状況及び学校施設の状況を記載してございます。

最後に、資料の 20 ページをご覧ください。

こちらでは、2つの地域の地域別協議会並びに適正配置審議会の開催経過になります。

説明につきましては以上となります。よろしくお願いたします。

(教育総務部長)

ありがとうございました。

ただいま、市立小中学校の教育環境整備の推進について説明がありました。

まず、委員の皆様からご所見等をお願いしたいと思います。  
荒川委員、お願いいたします。

(荒川教育委員会委員)

では、意見を述べさせていただきます。

まず、地域別協議会や地域説明会、さらにはメールやファクスなどからも多くの方からご意見をいただきました。読ませていただき、考えを深めることができました。ありがとうございます。

ご意見からは、地域や保護者の皆様のそれぞれの学校に対する深い愛情を感じました。共感しながら読ませていただきました。

この地域や保護者の皆様のそれぞれの地域や学校や子どもたちへの大きな思いは、開校から長い間、教職員の皆さんが地域や家庭との連携を密にして、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら信頼し合い、協力し合いながら子どもたちを育てているからだと思い、感謝の思いでいっぱいになりました。

また、適正配置審議会での会議録からは、委員の皆様からの全市的な視点や知見を基に、様々なご意見をいただきました。気づかされることも多くあり、ありがたく思っております。

私は、これからの時代を生き抜く子どもたちのために必要なことについて考えました。これからの予測が難しい時代を生きていく子どもたちには、読み書きそろばんといった基礎的な力だけではなく、新たな価値の創造や未来を切り開く力が一層必要となってきます。

そのために主体的、対話的な深い学びとして多様な意見を取り入れて自身の考えを深める学習などが求められています。また、集団種目を通じたルールやチームワークを体得する体育などの授業においては、学習課題に対して粘り強く取り組むことやチームの中で自制心が必要な場面などでは、ほかの子どもが存在が大きな成長につながります。

ほんの一部の紹介ですが、多くの人と協力し合いながら生きるための基礎が学校教育の中で育まれます。そのような観点からも、学習指導要領や横須賀市の施策に基づく学習活動ができるように適正規模での教育を推進すべきであると考えます。

さらに学校施設の老朽化やレッドゾーンの問題についても、このことを後回しにしては、子どもたちが安心して安全に学べる教育環境とは言えないと思います。

統合時期につきましては、様々なご意見がありましたが、可能な限り速やかに教育環境を整備していくことが必要であると考えます。

以上のことから、考えに考え悩みに悩みましたが、田浦小学校と長浦小学校、走水小学校と馬堀小学校が統合することはやむを得ないと考えました。

しかし、田浦小学校区から長浦小学校までと、走水小学校区から馬堀小学校への通学路を委員の皆さんや事務局の皆さんと実際に歩いてみたのですが、どちらの通学路も雨天時だけでなく、晴天時であっても、子どもたちが毎日歩いて通うには、何らかの安全確保の対策が必要であると感じました。

この点につきましては、格段の配慮をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

(教育総務部長)

ありがとうございました。

続きまして、澤田委員、お願いいたします。

(澤田教育委員会委員)

では、私からは、子どもたちに求められる資質・能力の観点からお話をさせていただきます。

今、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代となってきました。そのような中で、学校教育には一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

私たちは、つい最近コロナのあの学校の臨時休校等これまで経験したことのないことに遭遇しました。その中で、学校は単に学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達、成長を保障する役割や人と安全・安心につながるることができる居場所、セーフティーネットとして身体的、精神的な健康を保障するという役割をも担っていることを再認識いたしました。

学校再開後には、限られた時間の中で、学校における学習活動を重点化する必要が生じましたが、そのような中でも、まず求められたのは、学級づくりの取り組みや学校行事を行うための工夫など、学校教育が児童生徒同士の学び合いの中で行われるという特質を持つことを踏まえ、教育活動を進めていくことであります。

今、学習指導要領においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが推進されています。個々の発達やニーズに合わせた「個別最適な学び」とともに、子どもたちが様々な

事項を共に作り上げていくというプロセスの中で学ぶこと、異なる考え方が組み合わせよりよい学びを生み出していくという「協働的な学び」が必要です。

特に「協働的な学び」では、同じ空間で時間を共にすることでお互いの感性や考え方等に触れ、刺激し合うことが重要です。そして、人間同士のリアルな関係づくりは社会を形成していく上で不可欠です。

それには、学校行事や体育等での集団構成など、ある程度の集団の保障が必要であると考えます。個別の学びとある程度の集団の学びの確保、多様な教育の場を柔軟に選択できることが大切です。そのようなことから、小規模化の課題に対応した答申内容を私は支持いたします。

さて、審議会答申に至るまでの審議の様子、議事録について、私もしっかりと目を通しました。様々な意見、心情があるとは承知しており、審議会の方々には苦渋の判断であったことと思います。しかし、次代を切り拓く子どもたちにどのような資質・能力が必要なのか、どのような子どもたちに育ってほしいのか。子どもの利益に立ち返り、熟考した上での答申であると重く受け止めております。

私たち教育委員も実際に田浦地域や走水地域の通学路を歩きました。通学の安全確保、これは一番心配するところです。

また、両地域ともに自然環境、歴史、文化など教育資源が豊富です。これらの教育資源が今後も活用できるように、そのほかにも跡地利用や校名の件、今後の進め方等これらの課題については、地域の方々や関係部署等と一緒に考えていきたいと思っております。両地域の審議会答申の付言にある事項については、これを確実に協議検討していくことが重要であると考えます。

私からは以上です。

(教育総務部長)

ありがとうございました。

続きまして、川邊委員、お願いいたします。

(川邊教育委員会委員)

私は、医師という立場から少人数の場合子どもたちの健康のことが気になるところです。

健康、これはもちろん体の健康、心の健康であります。

例えば、ドッジボールのような球技を考えた場合、少人数ですとすぐ終わってしまいます。それを大人数でやれば非常に楽しく盛り上がるでしょう。必然的に体の運動も十分できると思います。また、そういうときに勝ったと



きの喜びや負けたときの悔しさもより大きくなり、大事な感情が生まれてきます。マ스ゲームが成功したときの充実感も、多人数で行うからこそだと思えます。

人数が多ければ様々なあつれきが生じます。それに対処するために考え行動することも社会生活を行う上での大事な要素、訓練となります。そのような環境だからこそ心も体も正しく育っていくことと思えます。

次に、教職員の面からちょっと述べさせていただきます。

地域の方からも、1つの学校における教員数が少ないことを心配するご意見が出ていたと思えます。学級数などにより教員が配置されるため、小規模校においては、教室も教員の配置数も少なくなりますので、学校内で管理職、先輩、後輩など教員同士が十分に相談できる体制、指導できる体制が取れるでしょうか。

また、ベテラン教員が大量に退職したので新規採用も増加し、若手の教員が増加している状況もあると思えます。若手教員へのフォローなんかもやれるんですか。管理職になり得る教員の育成は進んでいるのか。1学年1学級ですと、学級運営だけでなく、学年運営も1人で行わなければならないと思えます。

今後ますます教員の確保や現職の教員のスキルアップにも注力しなければならぬと思えますが、教員の多忙化が叫ばれる中で、このような状況から教員の負担がますます増えていくのではないかと。教員の心と体の健康を維持することは、子どもの教育に直結することであり、教員はこのような状況でも、最善の教育が提供できるよう頑張っていってほしいと思えます。

1つの学校において、適切な教員数があるものではないかと思えます。教育委員会では、教員の心と体の健康を維持できるよう教育環境の整備の面から適切な教員数が確保できるように対応していく必要があると思えますので、今回の小規模校である田浦小学校と長浦小学校、走水小学校と馬堀小学校の学区の統合についても、やむを得ないのではないかと思えます。

ただ、地域の方々からご意見をいただいておりますとおり、学校は地域活動の拠点でもありますので、その部分についても配慮が必要であると思えます。地域の行事、県民運動会、学校開放や避難所にもなっております。

そのあたりは跡地利用の話にも関わると思えますので、教育委員会、できれば行政として全庁的に検討していく必要があると思えます。その際には、地域の方々等のご意見ほか、いろいろと伺いながら検討を進めていただければと思えます。

以上でございます。

(教育総務部長)

ありがとうございました。

続きまして、元木委員、お願いいたします。

(元木教育委員会委員)

私からは、子どもが小学校に在籍している保護者の立場として意見を述べさせていただきます。

子どもが通っている学校が途中で変わるということは、新しい環境になじめるかどうか、安全に通学できるかどうか。子ども、保護者共々不安や心配な面があります。

しかし、小規模校化が進むと、クラス替えで多様な子どもたちと接する機会が失われたり、体育でのグループ活動や集団学習ができなくなるなど様々なデメリットも生じます。学習効果や子どもの成長を考えると、適切な規模で教育を受けられるように環境を整備する必要があると言えます。

子どもたちの意見を聞いた上で、教育環境整備の方策を検討すべきといったご意見もございますが、子どもたちが横須賀市及び市立小・中学校を取り巻く課題を理解した上で、自分たちの置かれている立場を客観的に捉え、冷静に意見することは難しいと思います。

むしろ保護者が子どもたちの意見を聞くとともに、俯瞰的な視点で子どもたちにとってよりよい教育環境をどのように整備していけばいいのか、保護者と子どもと一緒に考えていくことが大事なのではないでしょうか。

また、実際に田浦小学校から長浦小学校、走水小学校から馬堀小学校まで想定される通学路を歩きましたが、トンネル内が暗く歩道が狭い、横断歩道が少ない、通学距離が長くなるなど、通学路を整備したり、通学費の補助やスクールバスのように徒歩以外の通学手段を用意するなど、通学の安全確保について対策する必要があると感じました。

通学の安全確保の対策を講じるとともに、学校見学や子どもたちの交流する機会を設けるなど、子どもたちが不安を解消できる対策を講じた上で、適正規模での教育を推進すべく、田浦小学校と長浦小学校、走水小学校と馬堀小学校を統合するのはやむを得ないと考えております。

統合時期としては、学校の小規模化が進んでおり、学校施設の老朽化も喫緊の課題であることから、可能な限り速やかに教育環境を整備していく必要があると思います。

教育環境を整備する過程において、子どもたちが感じている学校が変わってしまうことに対する寂しさや不安が、新しい学校で新しい友達と楽しくわくわくするような日々を過ごせる、早く一緒に勉強したいといった前向きな

気持ちに変わるように統合を進めていただければと思います。

私からの意見は以上となります。

(教育総務部長)

委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、教育長から所見をお願いいたします。

(新倉教育委員会教育長)

ただいま各委員の皆さんからも発言がありましたが、横須賀市立小中学校適正配置審議会からの答申をいただいた2つの地域については、それぞれに喫緊の課題を抱えており、早急に教育環境を整備する必要があると考えております。

これまでの横須賀市における小学校の統廃合は、振り返ってみますと、主に児童数の増加によって分離をした学校をまた元の学校に戻すという形での統廃合が行われてまいりました。

しかしながら、現在の教育環境について考えると、学校規模の小規模化と学校施設の老朽化や建て替えに伴うレッドゾーンの指定、通学に関わる距離や安全性など、対応すべき課題が多岐にわたることから、単純に規模の小さい学校を規模の大きい学校に編入するというだけでなく、全市的により幅広く小・中学校の配置に関わる将来像を見据えた上で検討していく必要があると考えております。

今回対象となっております2つの地域についても、単純に規模の小さい学校を規模の大きい学校に編入するといった考えではなく、対応しなければならない課題について、様々な方策が検討されてきたと考えております。

その結果として、今回いただいた答申は、横須賀市立小中学校適正配置審議会が全市的な視点を持ちながら、今後の横須賀市の教育環境として適切なものと判断された内容であると認識しており、教育委員会としても重く受け止めていかなければいけないと思っています。

現在と未来の子どもたちのよりよい教育環境のためには、答申いただいた教育環境整備の方策を早急に推進する必要があると考えているところです。

なお、本日教育委員会委員の皆様からの指摘がありましたが、教育環境整備に係る方策の実施にあたっては、これまでと通学路が変わることから、児童が安心・安全に通学することができるよう、統合と同時に適切な通学支援策の実施が必要と考えておりますが、ぜひこの点につきましては、市長のほうからもご助言等いただければと考えているところです。

私からは以上でございます。

(教育総務部長)

教育長、ありがとうございました。

それでは、市長からご所見をお願いいたします。

(上地市長)

まず、様々なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

横須賀市立小中学校の教育環境整備の推進に係る状況について、改めて理解をさせていただきました。

全国的な人口減少、少子高齢化の中、本市としても定住人口や子どもの急激な増加が見込めない状況において、今、横須賀で成長している子どもたちやこれから横須賀で成長する子どもたちの教育環境をしっかりと整備していく必要があると思います。

私の考える「教育のあるべき姿」は、子どもたちに「生き抜く力」を身につけさせることだというふうに思っています。「生き抜く力」とは、よく言われる「生きる力」よりももっと主体的であり、どんな時代、どんな社会においても、一人の人間として生きていくための不変の真理だと思います。

この「教育のあるべき姿」を目指すにあたっては、現在の小中学校を取り巻く環境は非常に厳しく、学校規模の小規模化、学校施設の老朽化や建て替えに伴うレッドゾーンへの対応といった様々な課題があります。

これらの課題に対応するために、教育委員会では、教育環境整備計画に基づき、田浦地域と走水・馬堀地域の教育環境整備の方策を検討しているところですが、事務局からの説明にあるとおり、両地域ともに喫緊に解決しなければならない課題があると考えておりますが、私としては、横須賀市立小中学校適正配置審議会からの答申にあるとおり、田浦小学校区を長浦小学校区へ、そして、走水小学校区を馬堀小学校区へ編入する方策を実施する必要があると考えています。

今回対象となる小学校は、共に長い間地域に根つき、地域のコミュニティーの核として、横須賀市の教育を支えてきた学校であり、そのような学校を統廃合するということは苦渋の決断であります。

今回の統廃合によって、今まで田浦小学校、走水小学校に通学していた児童や今後通学する予定だった子どもたちについては、通学距離が長くなったり、通学路に危険な場所があるなど、様々な不安があると思います。

通学の安全に係る保護者の不安に対しては、通学支援策を実施し、子どもたちの安全確保に万全を期したいと考えておまして、通学支援策について、教育委員会と協議・検討していきたいと思っております。

また、通学に係ること以外にも様々な不安や懸念等があると思いますが、教育委員会として、まずは適切な教育環境の整備を行い、その上で行政として必要な対応については、全市的に行っていきたいというふうに思います。

追加ですが、能登半島沖でこのような地震があり、いまだにその全容が解明されず、死亡者数もそれから行方不明者数もどんどん増えているような状況で、安全対策、子どもたちを取り巻く環境、地震対策についても喫緊だというふうに思っています。

首長として何ができるかということを考えたときに、やはり子どもたちにとって、環境というのは非常にこれから厳しいものがあると思います。「生き抜く力」、これから何が起こるか分からない時代に、我々は子どもたちを守るために全力を尽くさなければいけません、一方で、やはり先ほど申し上げましたように「生き抜く力」、どんな状況でも生きていく力というものをつけさせたいというふうに思います。

亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますが、これも私たちにも課せられた半島に住む宿命だというふうにご理解をいただいて、子どもたちを取り巻く環境をこれからも皆さんと共にますます健全なものにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

以上です。

(教育総務部長)

市長、ありがとうございました。

それでは最後に、教育長、ご発言をお願いいたします。

(新倉教育委員会教育長)

ただいまの様々な皆さんのご意見、それから市長のご発言を受けた後、本日開催を予定しております教育委員会の1月定例会において、田浦地域及び走水・馬堀地域に係る方策について議案を諮りたいと考えております。

また、それをもって方策が決定することになります。方策を決定した後、市長からのご発言にもありましたように、統廃合に係る対応について適切に進めてまいりたいと思っております。

また、今後も新たな地域については、教育環境整備の検討を進めていくこととなりますが、引き続き学校関係者や保護者、地域の方々と協働し、それぞれの立場から、現在と未来の子どもたちのよりよい教育環境のためにという共通の視点で協議を続けてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

(教育総務部長)

ありがとうございました。

以上をもちまして、予定していた案件は全て終了いたしましたので、進行を市長にお戻しいたします。

(上地市長)

どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

以上をもちまして、予定していた案件は全て終了いたしましたので、本日の総合教育会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

5 閉会及び散会の時刻

令和6年1月11日（木） 午前10時11分